

阿部彩『子供の貧困―日本の不公平を考える』岩波出版 2008 年

第 6 章 子供にとっての「必需品」を考える

疑問点・論点

「日本の一般市民は、子どもが最低限にこれだけは享受するべきであるという生活の期待値が低いのである」(188 頁)とあり、その理由として筆者は、数々の神話が原因だと考えている(191 頁)。その結果、社会全体の生活レベルをさげることとなる。

このような貧相な貧困観を改善するにはどうしたらいいか。

A

マスコミ等を通じて貧困の子供たちの現状を世間に知ってもらおう。

B

子供のころの生活が将来の様々な達成には密接な関係があり、日本の経済格差が広がっていることを認識してもらおう。

そして子供の教育の重要性を世間にわかってもらおう。

C

メディア等を通じて子供の貧困について幅広い世代に現状を知ってもらい今までの考え方をより良い方向に変えるべき。

D

子供期の生活の充足と将来に密接な関係があるということを理解してもらおう。

また、相対的剥奪というものがあるということを認識してもらい、子供にとっての必需品が何か知ってもらおう。